

豊前 奥平家 代々

就任・退任年

初代	名前	奥平昌成	まさしげ	経歴	丹後宮津から					<p>【 奥平 昌成(まさしげ) 】1694－1746 中津奥平藩の初代藩主。 享保2年、中津に入部。30年間にわたり城下町の編成、農村の掌握に努めます。 凶作のため藩財政が苦しくなり再三 儉約令を出している。享保14年 藩札を発行、 享保15年の百姓一揆(いっき)、同17年の西日本を襲った大飢饉(ききん)などにより 財政は一層困窮し、農民の逃散(ちようさん)や捨子が増加したといわれている。 奥平の時世では最も多難な時代であったといえましょう。</p>
	官位	従四位下	石高	10万石	区分	譜代	享保2年	1717	誕生年	元禄7 (1694)
	受領名	大膳大夫	家格	城主	詰間	帝鑑間	延享2年	1745	死亡年	延享3 (1746)
	出自	下野宇都宮藩主奥平昌章の二男		備考						
二代	名前	奥平昌敦	まさあつ	経歴						<p>【 奥平 昌敦(まさあつ) 】1724－1758 2代藩主。 昌成の長男で、延享3年(1746)12月家督を継ぎます。 領内の儉約に力を入れ自分の部屋の灯を2台から1台にしたといわれています。 宝暦2年(1752)から宝暦の改革に着手し、特定の問屋に営業の独占をさせ、 商人に対して新たに運上(うんじょう)を課したり、銀札の発行をするなどして 藩財政の立て直しをはかりました。</p>
	官位	従五位下	石高	10万石	区分	譜代	延享2年	1745	誕生年	享保9 (1724)
	受領名	大膳大夫	家格	城主	詰間	帝鑑間	宝暦8年	1758	誕生年	宝暦8 (1758)
	出自	奥平昌成の二男		備考						
三代	名前	奥平昌鹿	まさか	経歴						<p>【 奥平 昌鹿(まさか) 】1744－1780 3代藩主。 父昌敦が34歳の若さで亡くなつたためわずか14歳で藩主となりました。 在職中、文化面で卓越した面を見せ和歌 絵画に親しんでいます。 また「解体新書」を著した前野 良沢(りょうたく)の蘭学学習を積極的に支援 しています。 彼は良沢のことを「オランダの化物」とひやかしたものいわれています。 一方、彼の治世の時期に池大雅(いけのたいが)が自性寺(じしょうじ) (奥平家の菩提(ぼだい)寺)に滞在し多くの作品を残しています。 現在その作品は自性寺の大雅堂に多数残されています。 政治 経済面でも賢君と称されています。</p>
	官位	従五位下	石高	10万石	区分	譜代	宝暦8年	1758	誕生年	延享1 (1744)
	受領名	大膳大夫	家格	城主	詰間	帝鑑間	安永9年	1780	死亡年	安永9 (1780)
	出自	奥平昌敦の長男		備考						
四代	名前	奥平昌男	まさお	経歴						<p>【 奥平 昌男(まさお) 】1763－1786 4代藩主。</p>
	官位	従五位下	石高	10万石	区分	譜代	安永9年	1780	誕生年	安永4 (1763)
	受領名	大膳大夫	家格	城主	詰間	帝鑑間	天明6年	1786	死亡年	天明6 (1786)
	出自	奥平昌鹿の長男		備考						
五代	名前	奥平昌高	まさたか	経歴						<p>【 奥平 昌高(まさたか) 】1781－1855 5代藩主。 4代藩主 昌男(まさお)が24歳で没し、昌男の長男も早世しており嗣子不在で、 御家断絶の危機をのりきるために、 薩摩藩主 島津 重豪(しげたけ)の2男を急きよ養子にし、名を昌高と改めさせ、 天明6年(1786)8月、5代藩主となりました。</p>
	官位	従四位下	石高	10万石	区分	譜代	天明6年	1786	誕生年	天明6 (1781)
	受領名	大膳大夫	家格	城主	詰間	帝鑑間	文政8年	1825	死亡年	安政2 (1855)
	出自	薩摩鹿児島藩主島津重豪の二男		備考						
六代	名前	奥平昌暢	まさのぶ	経歴						<p>打ち続く凶作 や寛政3年(1791)、同5年(1793)の町方騒動、 文化9年(1812)の農民一揆などが起き、政治 経済面では大きな成果は上っていないようです。 文化面では、寛政2年に藩校「進脩館(しんしゅうかん)」をつくらせ、 文化7年(1810)には『蘭語訳撰』(和蘭辞書)いわゆる『中津辞書』を刊行させて います。 文化8年、2男 昌暢(まさのぶ)に家督を譲りましたが、引退後も政治に関与したと いわれています。</p>
	官位	従四位下	石高	10万石	区分	譜代	文政8年	1825	誕生年	文化6 (1809)
	受領名	大膳大夫	家格	城主	詰間	帝鑑間	天保3年	1832	死亡年	天保3 (1832)
	出自	奥平昌高の二男		備考						
七代	名前	奥平昌猷	まさみち	経歴						<p>文化14年には、幕府の治役に任命されている。 また、嘉永6年(1853)ペリーの浦賀来航の時には、開国論を唱え、貿易を許可し、 相手の長所を取り入れた軍備を整えるべきだと主張したといわれています。</p>
	官位	従四位下	石高	10万石	区分	譜代	天保3年	1832	誕生年	文化11 (1814)
	受領名	大膳大夫	家格	城主	詰間	帝鑑間	天保13年	1842	死亡年	天保13 (1842)
	出自	奥平昌高の五男		備考						
八代	名前	奥平昌服	まさもと	経歴						<p>名前</p>
	官位	従五位下	石高	10万石	区分	譜代	天保13年	1842	誕生年	天保1 (1830)
	受領名	大膳大夫	家格	城主	詰間	帝鑑間	慶応1年	1865	死亡年	明治34 (1901)
	出自	奥平昌暢の二男		備考						
九代	名前	奥平昌邁	まさゆき	経歴						<p>名前</p>
	官位	従五位下	石高	10万石	区分	譜代	慶応1年	1865	誕生年	安政2 (1855)
	受領名	美作守	家格	城主	詰間	帝鑑間	明治2年	1869	死亡年	弘化1(1884)
	出自	伊予宇和島藩主伊達宗城の三男		備考						

